



2015年7月3日

母親と小児科医を対象に「侵襲性髄膜炎菌感染症」に関する意識調査を実施

- 母親は「医師から薦められたら」、小児科医は「保護者から求められれば」 -
～任意接種ワクチンについて互いの意識のギャップが明らかに～

サノフィ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:ファブリス・バスキエラ、以下「サノフィ」)は、侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD:Invasive Meningococcal Disease)に関して、IMDの発症数が多い年齢層の子どもを持つ母親(子どもの年齢が2～5歳:119名、同11～13歳:117名)と小児科医(98名)を対象に、意識調査を実施しました。

調査結果は、任意接種ワクチンについての母親の意向は「接種可能なすべてのワクチンの情報を教えてほしい」「医師から薦められたら接種する」という回答が多く、IMD予防ワクチンに対しても同様の傾向がみられました。一方で、IMD予防ワクチンについての小児科医の任意接種に対する意向は、「保護者から求められれば接種する」という回答が多く、両者の意識のギャップが明らかになりました。

調査結果概要

<母親への調査結果>

- IMDについて内容を知っている母親は1割以下、疾患名の見聞きを含めても約2割にとどまる。
- 母親の約8～9割は「ワクチンで防げる病気はワクチンで予防する」という考えに同意し、「定期／任意に関わらず接種可能なすべてのワクチンの情報を教えてほしい」と希望する人が多い。
- 任意接種ワクチンについては、「医師から薦められたら接種する」という母親が6～7割と最も多く、「積極的に接種したい」との回答とあわせると約9割にのぼる。
- IMD予防ワクチンにおいても同様に、接種を動機づける推奨元としては、医師・主治医が最も多く、次に看護師などの病院スタッフやテレビ・ラジオ・新聞・雑誌などのメディアが挙げられている。

<小児科医への調査結果>

- IMDについて内容を知っている小児科医は約8割で、疾患名のみの認知を含めると9割以上。
- 症状や重篤性に比べて、発症リスク(年齢、集団生活、流行地域)については知られていない。
- IMD予防ワクチンについて内容を知っている小児科医は約3割、名前だけの認知を含めて約5割。そのうち約3割が「積極的に接種を薦める」、約6割が「保護者から求められれば接種する」と回答。また、接種に積極的な小児科医ほど、IMDの重篤性を考慮している傾向が見られた。

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
www.sanofi.co.jp



侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD: Invasive Meningococcal Disease) について

IMD は、グラム陰性好気性双球菌である髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) によって引き起こされる侵襲性感染症で、菌血症(敗血症なし)、敗血症、髄膜炎、髄膜脳炎の 4 つの型があります。髄膜炎菌は、健康なヒトの鼻咽頭からも低頻度ながら分離され、飛沫感染で伝播します。有する多糖体莢膜の違いにより、少なくとも 13 種類の血清群が確認されており、感染のほとんどは、血清群 A,B,C,Y および W-135 により起こるとされています¹。髄膜炎菌は細菌性髄膜炎を起こす他の細菌と比べて 100 倍から 1000 倍の内毒素を産出するため、症状が急速に進み、治療開始のわずかな遅れが致命的な結果となる場合があります²。IMD の初期症状は発熱、頭痛、嘔吐など、非典型的な症状が主で早期の診断が難しいとされています³。IMD は、適切な治療がなされた場合でも、24~48 時間以内に患者の 5~10%が死に至ることが報告されており⁴、回復した場合でも、11~19%の割合で難聴、神経障害、手足の切断などの生涯続く後遺症が残るとされています⁵。

サノフィについて

サノフィは、患者さんのニーズにフォーカスした治療ソリューションの創出・研究開発・販売を行うグローバルヘルスケアリーダーです。糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、ジェンザイムを中核としています。サノフィはパリ (EURONEXT: SAN) およびニューヨーク (NYSE: SNY) に上場しています。日本においては、約 2,650 人の社員が、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」をビジョンに、医薬品の開発・製造・販売を行っています。詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

サノフィパスツールについて

サノフィパスツールはサノフィ・グループのワクチン事業部門で、毎年 10 億回接種分以上のワクチンを提供し、世界中で 5 億人以上の人々に対してワクチンの接種を可能にしています。ワクチン業界における世界的リーダーとして、サノフィパスツールは、20 種類もの感染症から人々を守る、世界で最も幅広いワクチンの製品ラインアップを提供しています。「命を守るワクチンを創る」という会社の伝統は、一世紀以上の歴史を有しています。サノフィパスツールはワクチンに特化したメーカーとして世界最大級の企業であり、日々、研究開発に 100 万ユーロ以上を投資しています。詳細は、www.sanofipasteur.com または www.sanofipasteur.us をご参照ください。

<別紙資料>

【侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD) に関する意識調査 — 母親対象】

【侵襲性髄膜炎菌感染症 (IMD) に関する意識調査 — 小児科医対象】

以上

1: Harrison LH et al : Vaccine.2009 ;27(Suppl.2) :B51-63

2: 林英夫、岩本愛吉、神谷茂、高橋秀実 監訳:ブラック微生物学第2版, P761, 丸善, 東京, 2007

3: Thompson MJ et al : Lancet, 2006 ;367 :397-403

4: World Health Organization Meningococcal meningitis Fact sheet No.141, Nov.2012. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs141/en/> (2015, May)

5: Rosenstein NE et al: N Engl J Med 2001; 344(18): 1378-1388



<別紙> 【**侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)に関する意識調査 - 母親対象**】

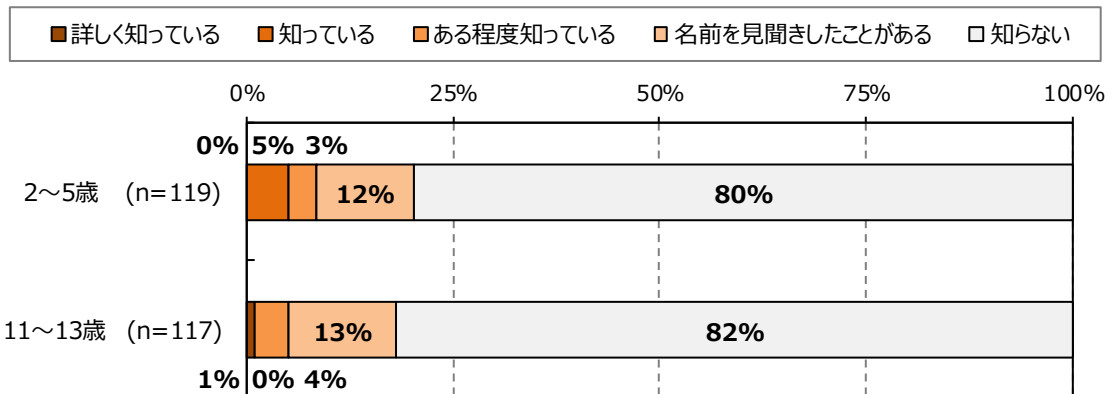
1. 調査概要

実施時期	2015年5月18日
調査方法	インターネット調査
調査地域	全国
調査対象	2～5歳の子どもを持つ母親 119名、11～13歳の子どもを持つ母親 117名

2. 調査結果

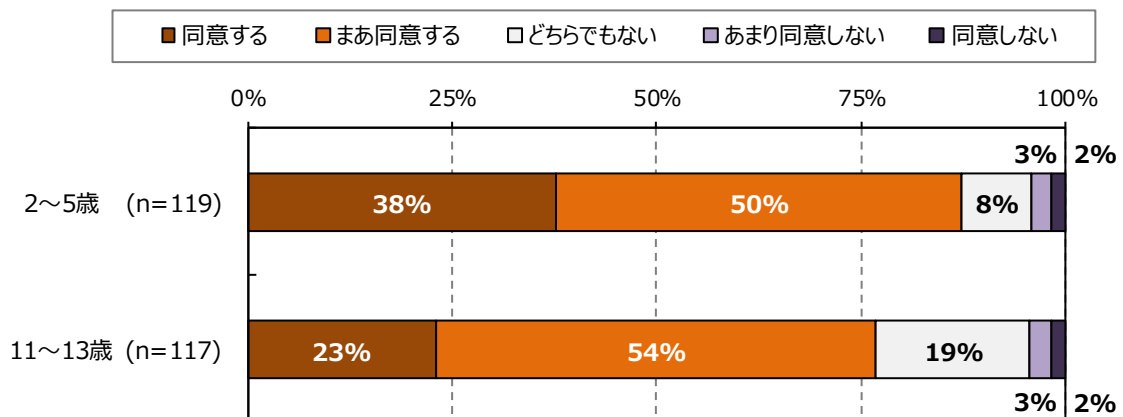
- IMDについて内容を知っている母親は1割以下、疾患名のみの認知を含めても約2割にとどまる。

<IMD について知っているか?>



- 母親の約8～9割は「ワクチンで防げる病気 (VPD) はワクチンで予防する」という考えに同意。(VPD: Vaccine Preventable Diseases)

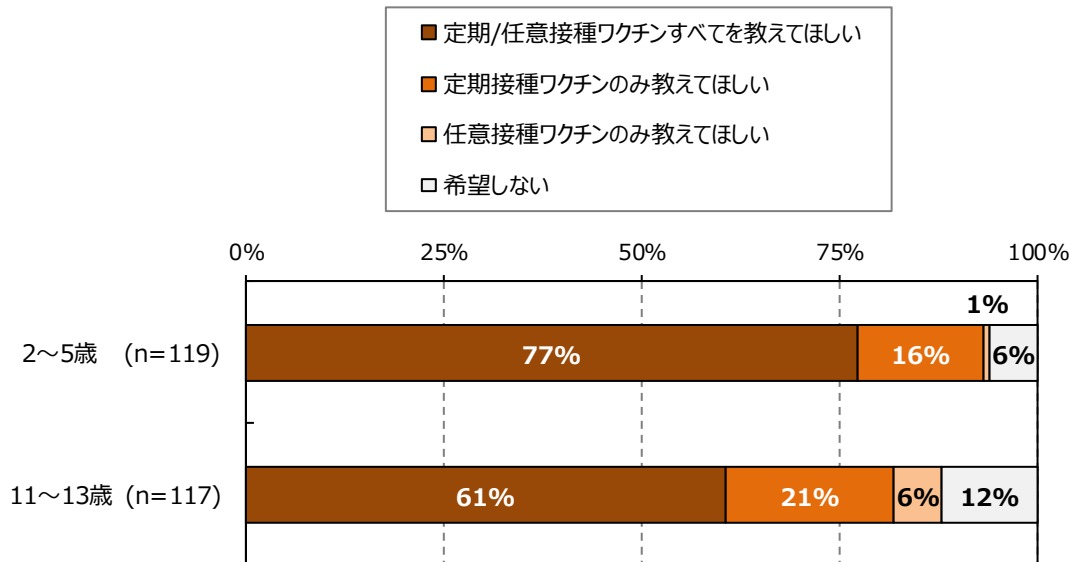
<VPD はワクチンで予防するという考え方をどう思うか?>





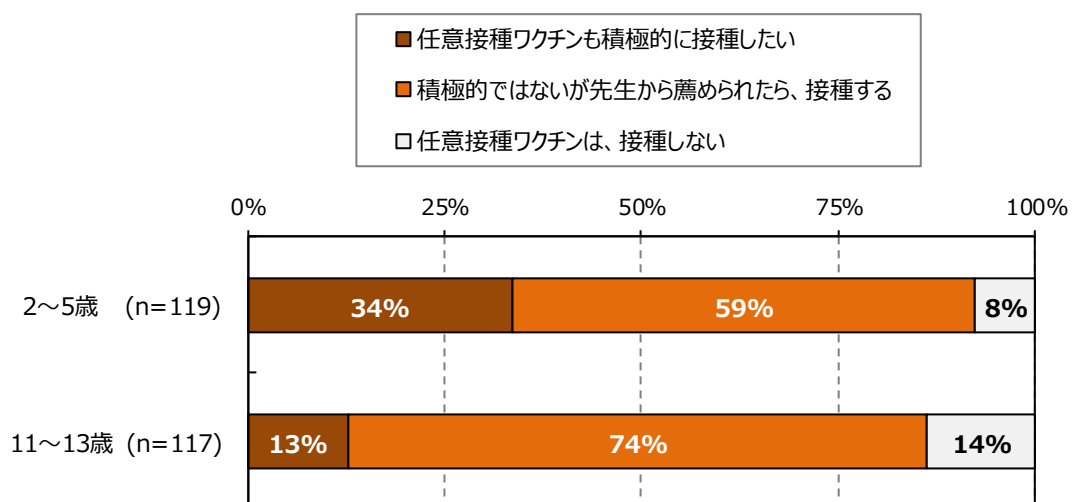
- 「定期／任意に関わらず接種可能なすべてのワクチンの情報を教えてほしい」と希望する人が多い。

<医師や看護師から接種可能なワクチンの情報を教えてもらいたいのか？>



- 任意接種ワクチンについては、「医師から薦められたら接種する」という母親が多く、「積極的に接種したい」との回答とあわせると約9割にのぼる。

<任意接種ワクチンについてどう考えるか？>

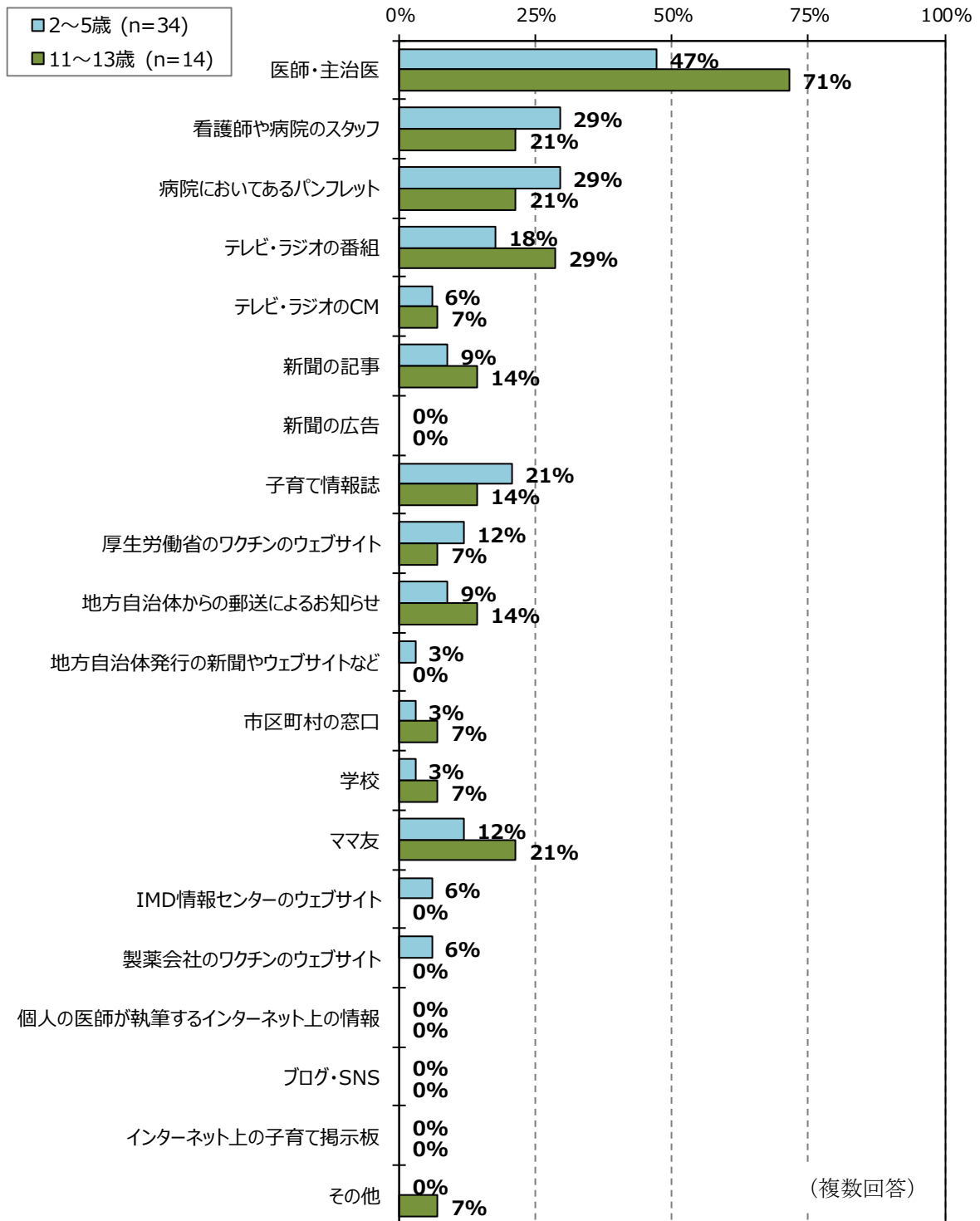




- IMD予防ワクチンにおいても同様に、接種を動機づける推奨元として「医師」の回答が最も多く、医療機関に次いで、メディアや行政が挙げられている。

<IMD 予防ワクチンを子どもに受けさせる動機づけとして影響のある推奨元はどれか?>

(対象: IMD予防ワクチンを知っていて子どもに接種させたい母親、n=48)





<別紙> 【**侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)**に関する意識調査 - 小児科医対象】

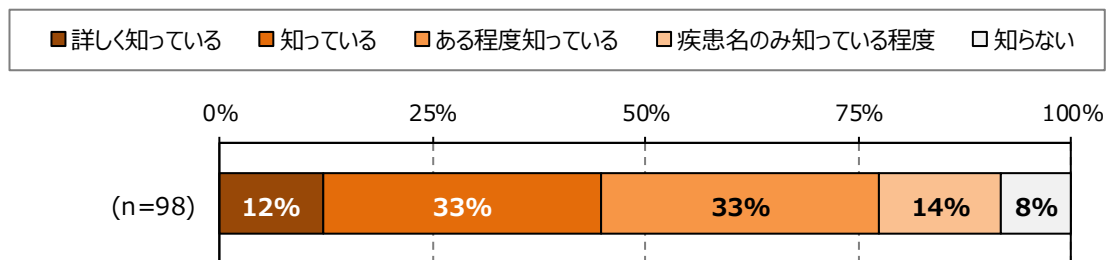
1. 調査概要

実施時期	2015年 4月20日～ 5月7日
調査方法	インターネット調査
調査地域	全国
調査対象	ワクチンの接種経験がある小児科医師 98名

2. 調査結果

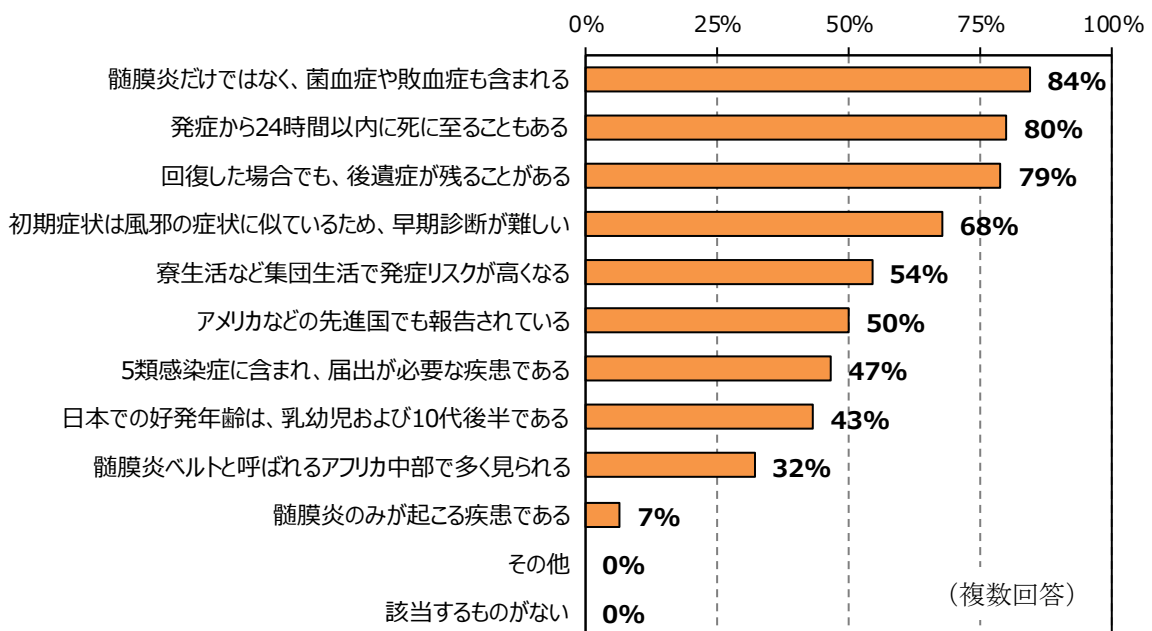
- IMDについて内容を知っている小児科医は約8割で、疾患名のみの認知を含めると9割以上。
- しかし、症状や重篤性に比べて、発症リスク(年齢、集団生活、地域)については知られていない。

<IMD について知っているか？>



<IMD について当てはまると思う項目はどれか？>

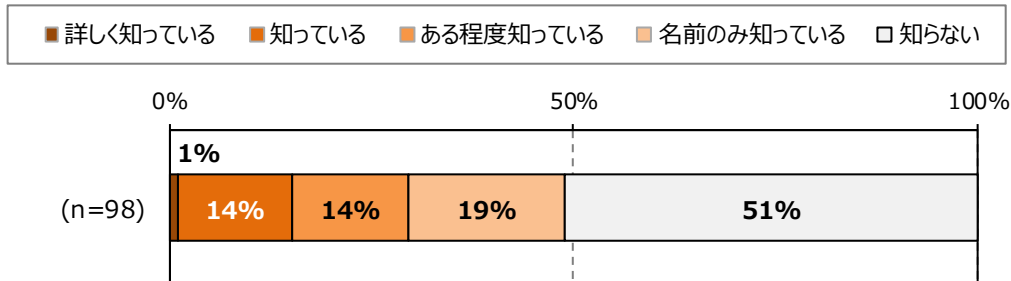
(対象: IMD を知っている小児科医、n=90)





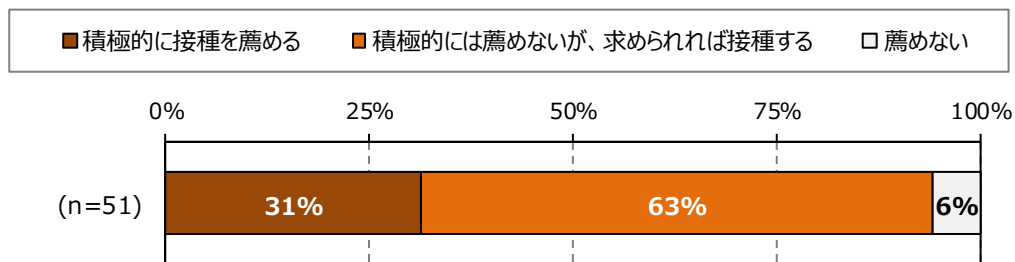
- IMD予防ワクチンについて内容を知っている小児科医は約3割、名前だけの認知を含めて約5割。そのうち約3割が「積極的に接種を薦める」、約6割が「保護者から求められれば接種する」と回答。

<IMD 予防ワクチンについて知っているか？>



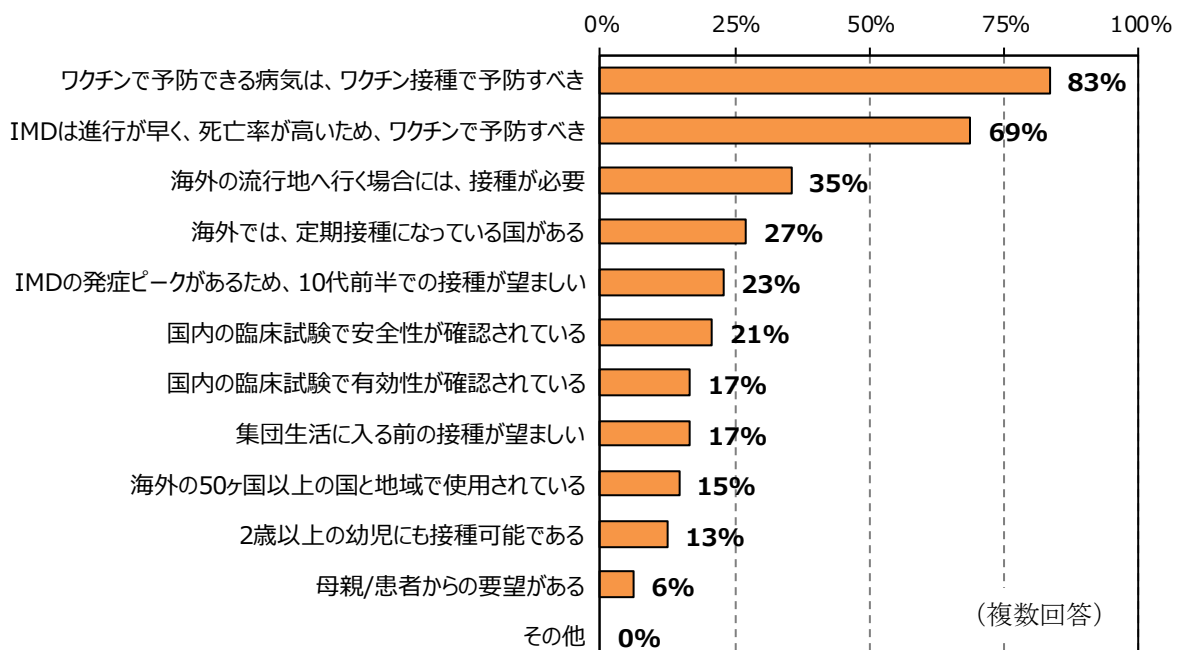
<IMD 予防ワクチンの接種を薦めるか？>

(対象: IMD 予防ワクチンを知っているまたは接種している小児科医、n=51)



<IMD 予防ワクチンを接種する理由はどれか？>

(対象: IMD 予防ワクチンを接種する意向がある小児科医、n=48)

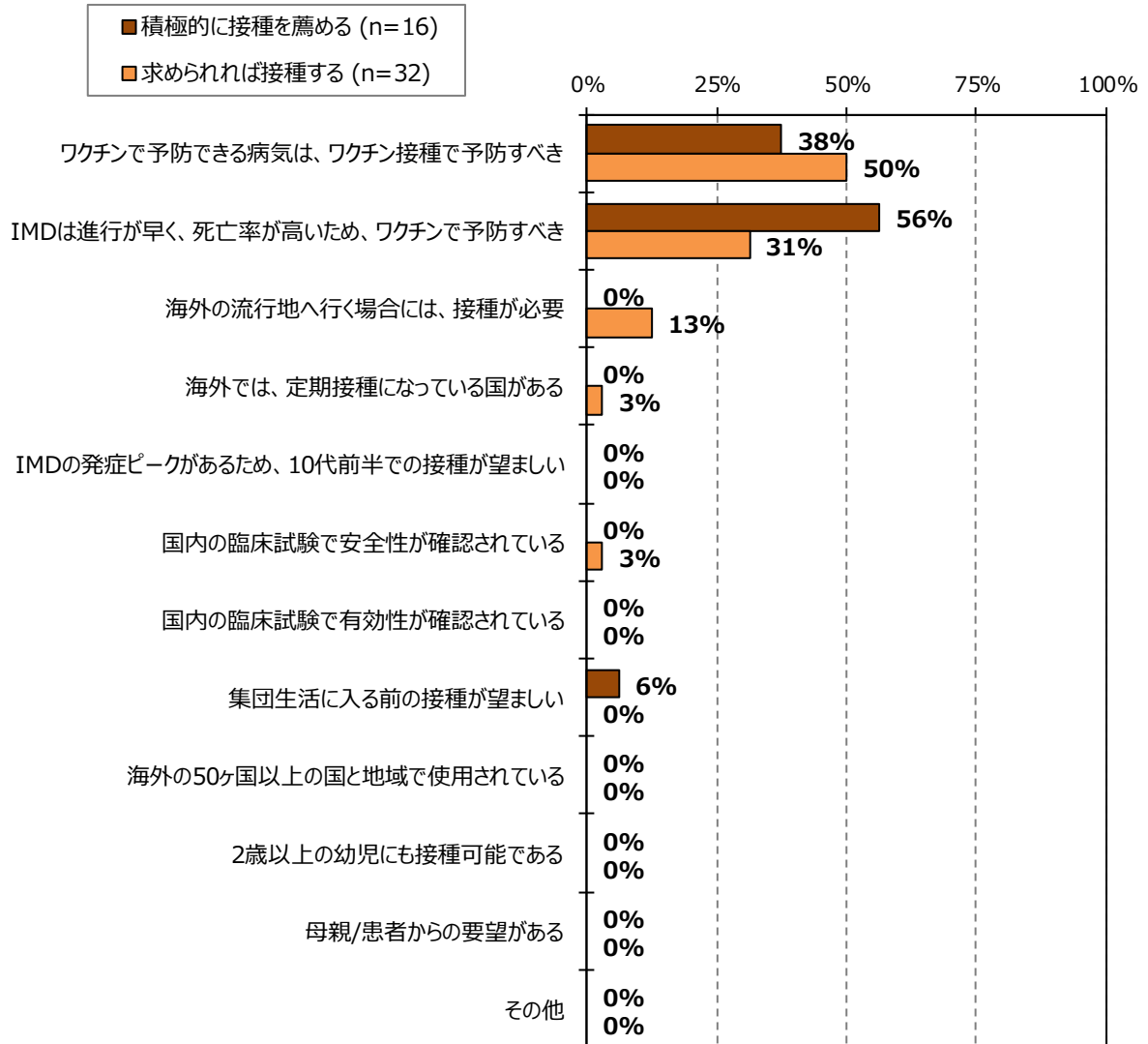




- また、接種に積極的な小児科医ほど、IMDの重篤性を考慮している傾向が見られた。

<IMD 予防ワクチンを接種する最大の理由は何ですか？>

(対象: IMD 予防ワクチンを接種する意向がある小児科医、n=48)



以上